

区医だより

発行●浪速区医師会 編集●広報部

巻 頭 言

学会から医会へ ー機能分担の在り方ー

奥 山 明 彦

(愛染橋病院 名誉院長)

今回は少し「肩のこる話題」になりますが
ご容赦ください。

先生方は様々な形で学会や医会（臨床医会）
に係わっておられます。前者は専門医制度、
後者は在宅医療等がキーワードかと思います。
内科や外科など主要学会の他に、消化器、循
環器、呼吸器など専門性を求める「関連学会」
に所属される方も多いと思います。2階建て
の専門医制度です。

医会には関連学会に匹敵するものは無く、
内科医会や眼科医会など主要科に限定されま
す。因みに大阪府医会連合は大阪府医師会の
一部門で主要科の他に透析医、警察医、女医
の3医会を加え17医会から構成。医会間の
情報交換から地域で発生する問題の解決、予
防医学、医療行政への対応などが協議されま
す。

学会は、社会、基礎、臨床医学を含め活動
実績、会員数、機関紙など一定の条件を満た
せば公益財団法人日本医学学会に登録・加入で
きます。現在122学会を数えます。日本医学
学会の求める登録条件から外れる専門学会は
250を超えています。先生方の専門領域の周
辺にも専門性に「特化」した小規模学会が多
数あり其々の使命を果たしているはずです。

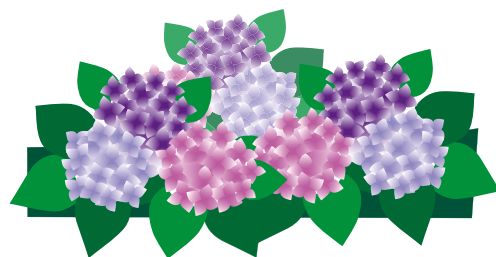
日本医学学会は、112年の歴史を持ち1948

年に日本医師会と合体、4年毎に東京、大阪、
京都、名古屋、福岡で総会開催、本年4月上
旬に29回総会が京都で開催、次回は名古屋
で2019年に開催予定です。

本題から少し外れましたが、学会を端的に
述べると「医学の司令塔」。その事業は「先
進医療・研究、卒後・生涯教育（専門医制度）、
関連学会の維持・発展、ガイドライン作成、
編集（機関紙発行ほか）、社会啓発、国際交
流」など多岐に亘り、年次総会で議決されま
す。基本的に「中央から地方へ（上意下達?）」
と理解します。

形成外科、病理やりハビリ学会を加えた17
主要学会の会計、事業内容は年度末に文部科
技省の監査を受けます。厚労省も監視してい
ます。行政は、学会が破綻すれば関係医療も
崩壊すると考えているからです。

主要学会の運営は大変です。私が4年間お
世話した公益社団法人日本泌尿器科学会は
105年の歴史、会員数は約8,000名（主要学
会の下から3位）、年度事業予算は約4億円
（60%は会費と専門医制度の収入）、事務局は
東京都文京区のビルのフロアーを借り、事務
長以下10名の常勤スタッフが会員管理を始
めとする業務を担当します。学術、財務、卒
後教育や編集など12部門の運営委員会があ



り理事或いは理事長が委員長を務めます。

理事長は総ての事業を統括、問題発生時の迅速な対応が求められます。海外出張中も急遽帰国します。週に最低3日は上京して事務局へ。IT時代でも膝詰の意見交換が必要です。委員会終了後の確認作業などで帰阪出来ず宿泊して翌日の朝から各種委員会の準備に追われる日々でした。これに国内外の関連学会への参加が加わります。アフリカや中近東など紛争地のことも有ります。国立大学教職員の出張は年間90日まで、大学事務局に事情を話し180日まで延長申請をしましたが実際はこれも超えました。

学会活動に在っても地域医療の重要性を認識していました。医会の副会長や学術顧問を務め、地域型病院での勤務を経験したからです。学会内に開業医部会をつくり、医会関係者に理事会陪席をお願いしましたが、さすがに大学教授が構成する理事各位から猛反対が起きました。

大阪大学退任後は愛染橋病院に赴任、大阪泌尿器科臨床医会の会長に就任。医会の趣旨は「標準医療の検証、地域や在宅医療、病診連携、医療安全、住民啓発・健診、医療行政」で「学会事業の補完」と容易に考えていましたが現実と思うほど安易ではありません。

医会は地域重視。学会とは異なり「地域から中央へ、或いは地域で完結」と考えています。中央と地域の関係は学会ほど強くない様です。

各医会の歴史、規模、事業は多様です。日本眼科医会の様に85年の歴史と法人格を有し眼科学会に匹敵する規模と事業を展開したり、臨床整形外科医会の様に日本整形外科学会の卒後教育に深く係る、なども有ります。

医会会長として5年が経過。きめ細かい医療提供、地域連携による病者救済、また医療者自身の立場も守ることが「医療の真髄」なのです。学会と医会は「時にはレストランでコース料理、普通はバランスの取れた家庭料理」の様な相補関係が望ましいのです。

最後に泌尿器科医会を紹介します。日本臨床泌尿器科医会は大阪泌尿器科臨床医会を母

体として20年前に発足、約1,500名の会員より構成、法人化を目指しています。

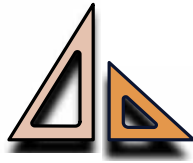
大阪の医会は、当時の大阪市大教授と2～3名の開業医の尽力で38年前に発足、会員数約500名と大部分の泌尿器科医が参加。機関誌を発行しています。学会と異なり「小回り」が効き、医会の中核と一般会員との意思疎通が良好です。庶務、学術から在宅、保険まで7部門の委員会が機能。しかし問題が発生したり、財務や人事に係る課題には会長の直接采配も有ります。年2回の学術総会、3～4回の講演会、委員会が進める事業や役員人事は大学医局の垣根を取り払って運営。ただし大学との良好な関係にも留意します。

学術奨励賞や毎月の保健講習会など新規事業を通じて日々刷新に勤め、地域医会のサンプルとして各地に波及させ、ひいては日本臨床泌尿器科医会の拡大・発展に寄与したいと考えています。

2017年の秋には大阪の医会発足40周年を迎え—もうしばらく残り火を掻き立てて—と思います。会員の皆様のご支援をお願いする次第です。



理事会報告



◎平成 27 年度 5 月定例理事会

日 時 平成 27 年 5 月 22 日〈金〉

午後 8 時～

場 所 浪速区医師会 会議室

協議事項

1. 認知症等高齢者支援地域連携事業について

＜橋村理事＞

昨年同様、業務委託をする。

事業の内容も昨年同様、「認知症講演会」と「医師とケアマネジャーとの連絡会」を開催する予定。

2. 大阪府在宅医療介護 ICT 連携事業補助金の申請について

＜久保田理事＞

本事業について資料のとおり、申請したい。本事業は、在宅医療を行うにあたり多職種の関係者間で、ICT を活用して患者の情報（居宅での療養状況や生活課題等）を共有する取組みを始める郡市区医師会に対して、経費の一部を補助する事業である。

協議の結果、了承。

3. 大阪府在宅医療推進事業補助金の申請について

＜久保田理事＞

昨年同様、本事業について資料のとおり、申請したい。

本事業は、訪問診療や看取りの実績がある診療所（強化型在宅療養支援診療所など）を地域で増やすことを目的としている事業である。

協議の結果、了承。

4. 定期総会の役割分担について

＜中村理事＞

当日の役割分担を下記のとおり決めた。

事業報告…中村理事、監査報告…菱川監事

事業計画…徳田副会長

収支予算…木田理事

決算…木田理事、監査報告…竹中監事

5. その他

(1) 健康展のミニ講演について

＜澤井副会長＞

今年度の講演テーマは「高血圧」に決定。

講師については未定。

報告事項

1. 郡市区等医師会長協議会について

（5 月 22 日〈金〉）

＜佐久間会長＞

次第は次のとおり。

▷開会

▷会長挨拶

▷退任される郡市区等医師会長紹介

▷郡市区等医師会新会長紹介

▷連絡事項

(1) 被保険者証一斉更新に伴う大阪府後期高齢者医療広域連合からのポスター配布依頼の件

(2) ネパール大地震被害救援活動への支援金の件

(3) HIV 陽性者の診療等に関する調査実施の件

(4) 平成 27 年度予防接種副反応状況調査実施の件

(5) 第 26 回全国医師会共同利用施設総会の件

(6) 大阪市における特別区設置住民投票の件

(7) 6 月度行事・会合日程の件

▷協議

▷閉会

（詳細 略）

2. 大阪市医師会連合会について

（5 月 18 日〈月〉）

＜佐久間会長＞

次第は次のとおり。

▷連絡事項

- (1) 平成 26 年下半年大阪市結核対策委託事業・実績報告の件
 - (2) 平成 27 度天王寺区子育てスタート応援事業実施の件
 - (3) その他
- ▷会議日程

(詳細 略)

3. 第 30 回大阪市医師会連合会評議員会について

(5 月 18 日<月>) <澤井副会長>
次第は次のとおり。

▷人権研修会

テーマ 児童虐待の現状と課題について

講 師 大阪市こども青少年局
こども相談センター
虐待対応担当課長代理
久保 樹里

▷評議員会

- (1) 開会
- (2) 会長挨拶
- (3) 評議
 - ①平成 25 年度歳入歳出決算報告の件
 - ②平成 27 年度事業計画に関する件
 - ③平成 27 年度歳入歳出予算に関する件

▷その他

▷閉会

(詳細 略)

4. 健康展第 1 回実行委員会について

(5 月 22 日<金>) <澤井副会長>
次第は次のとおり。

▷出展内容について

▷第 31 回収支決算及び第 32 回収支予算
(案)について

▷協賛金の依頼について

▷広報について

▷必要物品等について

▷照会事項

▷その他

(詳細 略)

5. 労災部会委員会について

(5 月 15 日<金>) <原田理事>
次第は次のとおり。

▷開会

▷挨拶

▷来賓挨拶

▷議事

- (1) 平成 26 年度労災部会事業報告について
- (2) 日本医師会「労災・自賠責委員会」報告について
- (3) 平成 27 年度労災部会事業計画について
- (4) 平成 27 年度第 1 回労災医療研修会の開催について
- (5) その他

▷閉会

(詳細 略)

6. 浪速区在宅医療・介護連携推進会議について

(5 月 20 日<水>) <橋村理事>
次第は次のとおり。

▷平成 27 年度在宅医療・介護連携推進事業について

▷その他

(詳細 略)

7. 学術講演会について

(4 月 18 日<土>) <富永理事>
講演内容は次のとおり。

演題 酸関連疾患治療の現状と未来

～ P-CAB をいかに使いこなすか～

講師 大阪府済生会中津病院 消化器内科
主任部長 岡田明彦 先生

出席者数 19 名

共催 大塚製薬株式会社

情報提供 大塚製薬が取り扱う消化器疾
患領域の製品紹介

(詳細 略)

8. 医療問題研究委員会について

(5 月 13 日<水>) <中村理事>
次のテーマで意見交換が行われた。

テーマ 地域包括ケアシステム構築に向けて
～在宅医療推進の視点から～
講演 大阪府医師会副会長 中尾正俊
(詳細 略)

9. 病診連携委員会について

(4月27日<月>) <入野理事>
次第は次のとおり。

- ▷第62回病診連携委員会報告について
- ▷ブルーカード事例検討等報告について
(日生病院)
- ▷病診連携委員会のアンケート結果について
- ▷医療連携と現在の取り組みについて
(歯科医師会)
- ▷医療連携と現在の取り組みについて
(薬剤師会)
- ▷その他

(詳細 略)

10. その他

なし。

次回理事会

平成27年6月26日<金> 午後8時～



5月度 学術講演会報告

日時 5月16日<土> 午後2時

演題 ストレス疾患と漢方

講師 センプククリニック

院長 千福 貞博 先生

出席者数 19名

共催 株式会社ツムラ

情報提供 ストレス疾患に対する漢方治療
- 最近の話題 -

担当 富永良子

総論

身体構成の3要素:気(陽)、血(陰)、水(陰)

気(陽)・血(陰)・水(陰)を勉強するときの注意点

- 1、水毒＝浮腫 } と思い込んでしまうこ
- 2、気鬱＝うつ病 } とは誤り

一方で

3、血虚＝貧血は、成立するであろう

4、瘀血＝微小血管血流障害であるが、自律神経の異常状態が原因

	病態	治療薬(生薬)
気	気虚	補中益気湯(人參、黄耆)
	気鬱	半夏厚朴湯 香蘇散 茯苓飲合半夏厚朴 (半夏 厚朴 紫蘇葉 柴胡 香附子)
	気逆	苓桂朮甘湯 甘麦大棗湯 (甘草)
血	血虚	四物湯 (当歸 川芎 芍藥 地黄)
	瘀血	桂枝茯苓丸 桃核承氣湯 (牡丹皮 桃仁)
水	水毒(滯)	五苓散 苓桂朮甘湯 (沢瀉 猪苓 蒼朮 茯苓)

<気>の3病態	代表的西洋医学病態
気逆	パニック障害
気虚	うつ病
気鬱	咽喉頭異常感症

各論

- 1、めまい⇒39番 苓桂朮甘湯+71番 四物湯
- 2、過換気症候群（パニック障害）⇒39番 苓桂朮甘湯+72番 甘麦大棗湯
- 3、うつ病⇒41番 補中益気湯、60番 桂枝加芍薬湯+71番 四物湯
- 4、咽喉頭異常感症⇒16番 半夏厚朴湯、116番 茯苓飲合半夏厚朴湯、他
- 5、胸部不定愁訴⇒16番 半夏厚朴湯、102番 当帰湯

1、めまい

漢方でのめまいは、回転性・非回転性の区別なし

脳血管障害やメニエール病などを除外できたら水毒を見抜く

問診	冷水を好んで飲む（温水摂取は治療になる）
脈診	滑脈が多い
舌診 （舌を出す）	歯痕舌がないか（歯に当ってできた凹みや舌が口角からはみ出す等）
腹診	振水音はないか

急性期のめまいには連珠飲（39番 苓桂朮甘湯+71番 四物湯）。

17番 五苓散も有効（悪心・嘔吐があるときはこちらを優先）。

重炭酸ナトリウム（メイロン）の静注やビタミン入りの点滴も併用可能。

2、過換気症候群（パニック障害）

漢方医学の概念では“奔豚気（ほんとんき）

39番 苓桂朮甘湯+72番 甘麦大棗湯

甘草は容易に偽性アルドステロン症

（低K血症、浮腫等）生じるため、

毎日服用する場合は5gまでにする。

1gでも偽性アルドステロン症になる場合がある。

急性・慢性にかかわらず39番 苓桂朮甘湯は効果あり（めまいに伴うパニックにも有効）

3、うつ病

西洋医学でのうつ病は 1、興味喪失
2、易疲労感が長期間、常時存在すること。
西洋医学的なうつ病を疑ったら、脈診で心脈（左橈骨動脈遠位端）をとり、“沈脈”であれば気虚と考え治療する。（沈脈は全身倦怠感や睡眠不足などを意味する。）

参耆剤（じんぎざい：人参と黄耆）が適応⇒41番 補中益気湯または 136番 清暑益気湯

疲労の代表である夏バテにも効果あり。

PTSDを疑えば、60番 桂枝加芍薬湯+71番 四物湯

- 4、咽喉頭異常感症（梅核気）⇒16番 半夏厚朴湯、116番 茯苓飲合半夏厚朴湯、他
半夏厚朴湯が無効の時、白苔、逆流性食道炎、不眠の有無により柴朴湯、加味逍遙散、麦門冬湯など使い分ける。
逆流性食道炎が原因と考えられる場合は、116番 茯苓飲合半夏厚朴湯を処方している。

- 5、胸部不定愁訴⇒16番 半夏厚朴湯、102番 当帰湯

冠動脈ステント留置後、胸部不快感に有効であった症例を提示

千福先生の治療法

気虚	西洋医学でのうつ病、心脈低下（脈診） 参耆剤を基本 補中益気湯が代表
気鬱	梅核気、噎気、腹部膨満、心下痞鞭（腹診） 半夏厚朴湯、当帰湯、香蘇散、茯苓飲合半夏厚朴湯
気逆	急性瘀血、振水音（腹診）、呼吸困難 甘草を基本 苓桂朮甘湯、甘麦大棗湯

7 月度学術講演会のお知らせ

7 月の浪速区医師会講演会の内容は下記のとおりです。

多数の先生方の参加をお待ちいたします。

日時：平成 27 年 7 月 18 日(土)

午後 2 時～ 4 時

場所：一般社団法人浪速区医師会 会議室

演題：「股関節疾患の保存的治療と、30 年以上の超長期に耐用しうる人工股関節置換術」

講師：医療法人寿会富永病院 整形外科
大西啓靖記念人工関節研究センター
センター長 大西 宏之 先生

本勉強会は、大阪府医師会生涯研修システムの対象となっておりますので、生涯教育チケットの持参をお願いいたします。

浪速区医師会 活動の伝言板

平成 27 年 7 月の各業務の出務予定は次のとおりです。

三 歳 児 健 診

●保健福祉センター

7 月 23 日(木)午後 1 時 40 分～ 3 時 30 分

小児科 宇田 創

眼 科 山尾 信吾

耳鼻科 前田 英雄

B C G 接 種

●保健福祉センター

7 月 16 日(木) 午後 2 時～ 3 時 30 分

本田 秀明・北村 栄作

急病診療所出務

●中央急病診療所

7 月 18 日(土) 準夜 15:00～22:00

入野 宏昭・池田 秀博

●今里休日急病診療所

7 月 5 日(日) 10:00～17:00

徳田 好勇・川田 信哉

有担保型事業性ローンはキャンペーン金利継続中です！

- ・診療所の継承資金に。[限度額]
- ・診療所の設備資金に。
- ・診療所の開業資金に。

3 億円
※開業資金のみ2億円

[借入期間] 35年以内

金利、条件等は
お問い合わせください。

□無担保型ローンのお取り扱いもございます。

自動車の購入資金に

オートローン

条件を見直し、ご利用いただきやすくなりました。

○医院専従者・医療法人理事の方もご利用可能に！ [限度額]

○限度額の範囲内であれば、2台目以降もご利用可能に！

○500万円以下のお申込みは、保証人が原則不要に！

1,000 万円

[借入期間] 7年以内

固定金利

年 1.80 %

医療法人、医院専従者、医療法人理事でお申込みの場合、500万円以下のお申込みでも医師の方1名の連帯保証が必要となります。

表示金利は平成27年6月にお借入れいただく場合の適用金利であり、毎月金利の見直しを行ないます。また、お申込み時点ではなく、実際にお借入れいただく日の金利が適用されます。



あとがき

Y.M.

さすがに泌尿器科領域で長年指導的立場にあり、国内のみならず国際学会の会長まで勤められただけに、巻頭言士は医学関係の学会という機構について精通しておられることがよくわかった。そして、大学を定年退職し、病院長として地域医療に従事するようになってからは、大阪の泌尿器科「医会」の運営とその発展に尽くしてこられたことにも頭が下がる。

あとがき子も内科関連で、多い時には6～7学会に所属していたこともあるが、今では2～3の学会に絞っている。しかし、もう学会に演題を出すことも論文を書くこともないし、診療もしないので専門医の資格も必要ないかと思うと、学会に出席する意欲が乏しくなってきた。一方、巻頭言士が力を注いでおられる所謂「医会」（私の場合は多分内科医会であろう）については、その実体をよく知らなかったの、あまり関心がなかった。現在いちばん必要なのは日医認定産業医の資格なので、産業医活動に関連した研修会には極力参加しているが…。

この3月末で病院での診療活動を終了することになったが、長年外来で診療してきた患者さん達を今後どうするかは、前々から引退するに際しての頭痛の種であった。近隣の患者さんの多くは今後も通院するというので、それぞれの専門領域も考慮しながら、若い先生方に今後のフォローをお願いした。しかし、遠方から来ている人達や80歳を超えた高齢の患者さん達、それに私の引退後当院には専門医のいなくなる領域の患者さんの大半は、本人の希望も聞き、この際自宅近くの適切な医療機関へ紹介することにした。その数は百人近くに及び、その紹介状を記入するのが予想外の大仕事になった。

阪大勤務時代から診ているので、30～40年に及ぶ病歴の患者さんもあり、おまけに多くが難病だったので、発病以来の概略と現在の病状や治療内容を、カルテを見ながら要約するのに一人当たり最低1時間を要した。昨年の12月頃から紹介状書きに取り組んだので、何とか3月中に全員に渡し終えることができたが、この年になって、期限付きでこれだけの重労働をするとは正直思いもしなかった。

医師には定年がないと自分でも信じていたし、今でも生涯医師であり続けたいとは思っている。しかし、第一線の医師としての仕事は、いずれ終えなければならない日が到来する。それは勤務医に限らず開業医でも同じであろう。その時如何にスムーズに、患者さん達を困らせることなく、上手に引退できるかが大きな課題だと思う。少なくとも医師の引退は、患者という人間が相手だけに、他の職種の人がリタイアする場合とは相当事情が異なることは事実である。

私自身は何とか無事乗り切ったつもりでいるが、現在働き盛りの若い先生方も、いずれ引退する時が来た際、如何にうまく対処できるかを想定しておくのもあながち無駄なことではないように思える。

目次	ページ
巻頭言	
学会から医会へ	
—機能分担の在り方— 奥山 明彦	1
理事会報告（5月開催）	2
5月度学術報告 富永 良子	5
7月度学術講演会のお知らせ	7
浪速区医師会活動の伝言板	7
あとがき	8

【区医だより】

発行者 佐久間靖博
編集者 山田郁子 中村泰久
印刷所 株式会社 サ ビ